



発行
加賀保護区保護司会

事務所
加賀市大聖寺南町
ニ 11-5 番地
TEL (0761) 75-7428



ケース研究会（令和 3 年 11 月 18 日）於 橋立中学校



安全で安心して暮らせる
加賀市の実現

大聖寺警察署
署長 岡部 雅彦

新年明けましておめでとございます。
加賀保護区保護司会及び保護司の皆様方におかれましては、
つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

今般、加賀保護区保護司会機関紙「日万和季」に寄稿する機会を賜り、誠に光栄に存じます。また、皆様方におかれましては、
犯罪を犯した人の更生を図るための助言や指導を通じ、社会に
適応する人づくりや、犯罪予防のための世論啓発による地域社会
づくりや、警察活動に格別の御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し
上げます。

さて、近年の治安情勢は、数値の上では、ピーク時の三分の一に減少しているところですが、依然として凶悪事件や高齢者を狙った特殊詐欺事件の発生があります。交通事故についても、
事故件数、死傷者のいずれもが減少していますが、高齢者運転による事故、高齢者が犠牲となる事故が発生するなど、予断を許さない状況にあります。

また、新型コロナウイルス感染症の拡大により、「新しい生活様式」が定着したことにより、個々人の行動が変化し、その影響は社会全体に波及しており、警察事象への対応も例外ではありません。

こうした社会の変化に柔軟に対応し、地域住民の期待と信頼に応え、「安全で安心して暮らせる加賀市の実現」を達成するため、当署としては、これまで以上に、地域住民、関係機関・団体等、地域社会との連携を密にし、署員一丸となって全力で取り組んでまいりますので、引き続き、警察活動への御理解と御協力をお願い申し上げます、新年の御挨拶とさせていただきます。



第七十一回 社会を明るくする運動

地域活動部 橋 博人

長引く新型コロナウイルス禍の中、犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラをテーマに「第七十一回社会を明るくする運動」が全国斉に展開されました。地域活動部では長きにわたり、毎年七月の社明運動強化月間中の重点事業として、市内の小中学生を対象に親子標語、ポスター、習字の作品を募集し、「家庭や地域社会の大切さ、犯罪や非行のない安心安全な社会」を実現するための啓発活動に取り組んでいます。今年度は親子標語が二百十二件、習字が九十四件、ポスターが十一件の応募がありました。

各部門の作品から特選・秀作・入選・佳作を審査します。例年ならばアビオシテイ加賀での表彰式と出発式、中学生の一日保護司体験を実施します。併せて作品巡回展示や街頭宣伝など盛大にイベントを行う予定でしたが、昨年と同様に新型コロナウイルス感染症対策のため中止せざるを得ない状況となりました。同所での作品展示のみとなりました。優秀作品の表彰は学校のご理解のもと、校長室にて会長から表彰状が授与されました。

また、ポスターの優秀作品の中から広報用のポスターを製作し、加賀市内全域に配布、掲示し広報活動の一役を担いました。標語は懸垂幕として市役所に設置、優秀作品の公表及び特選標語を加賀市の広報誌に折込むなど、社明運動の推進に務めました。

今後も、犯罪のない安心安全な街、親切ですべてに優しい街として誇れるよう、地域で継続的な活動を実施して行かなければならないと思います。

有名作家 チャリティ作品展

多くのご協力に感謝

令和三年度第四十四回有名作家チャリティ作品展が七月三十日から八月二日までめてつエムザの「エムザギャラリー」で開催された。今年も加賀保護区地域の有名作家から多くの作品が寄贈され、入札により更生保護活動の大切な資金として活用された。出展作家の皆様は改めて感謝いたします。

▼加賀市内出展作家名(順不同)

- 中村 秋塘 工芸 彩釉ぐい呑み
- 道場 八重 工芸 黄色幾何学文角小皿
- 山本 芳岳 工芸 赤絵
- 河島 万璃 工芸 色絵銀月夜台皿
- 山下 一三 工芸 ぐるぐる鉢と小鉢

- 芋野 憲夫 工芸 皿・カエデ
- 池島 保雄 工芸 青白瓷湯呑
- 野沢 洋子 工芸 灰釉花器
- 坂野 清一 工芸 和の灯
- 大下 宗香 工芸 象蒔絵香合
- 大下 百華 絵画 木版画(エンジェル)
- 篠尾恵美子 絵画 ドライフラワーと人形

- 上野 茂男 絵画 黒谷もみじ
- 松本 隆 絵画 桃源郷の春
- 児玉 孝吉 絵画 加佐岬灯台
- 三井 聖子 絵画 仲よし
- 嶋田 壽楽 工芸 色絵輪花形鉢
- 吉田 華正 工芸
- 華正時絵ガラス時絵クリスタルグラス

- 辻 英芳 工芸 櫻造拭漆盛器
- 中嶋 虎男 工芸 黒柿造香合(桐箱)
- 川北 良造 工芸 水目造湯呑(桐箱)
- 川北 良造 工芸 櫻造銀線象嵌菓子盆
- 川北 浩彦 工芸 待つ古材木目沈金酒器

- 佐竹 一夫 工芸 兼六園白柏造杯
- 長谷川 清 絵画 加佐野岬
- 中村 孝也 工芸 蒔絵ループタイ
- 種本 章 工芸 蒔絵キーホルダー
- 中村 元風 工芸 黒檀削箸
- 海部 公子 工芸 牛之図輪花皿
- 裕 紘一 工芸 九谷色絵珈琲碗桜
- 柿谷昭一郎 絵画 九谷色絵模様皿

- 種本 章 工芸 黒檀削箸
- 中村 元風 工芸 牛之図輪花皿
- 海部 公子 工芸 九谷色絵珈琲碗桜
- 裕 紘一 工芸 九谷色絵模様皿
- 柿谷昭一郎 絵画 バラ

ケース研究会 ビデオフォーラム

「ふたつの道」

研修部 小原 公美子

昨年度はコロナ禍拡大防止のため中止を余儀なくされ、二年ぶりのケース研究会が十一月十八日、橋立中学校で行われました。

研修部会で、内容を検討し、コロナ禍の中では準備段階での制限が多く、従来通りのビデオ『二つの道』を鑑賞し、グループ討議を行うことになりました。

橋立中学校は小中一貫校で他校では当たり前のチャイムがなく、その分生徒たちの時間に対する意識が強く、始業五分前には必ず着席し、メリハリのある行動を見て驚きました。

今回対象となる三年生は二十名と少人数なので、グループ討議の後には全員による意見発表をしてもいいと思います。その感想の中からいくつかの意見を紹介します



▼犯罪はしてはいけないとわかっていても、改めて犯罪や薬物について考え直すことができませんでした。このような機会があり、とてもよかったです。今後、私たちが生きていく中で必要なことが聞けて良かったです。

▼考え易く分かりやすいビデオでした。皆の前での意見発表は初めは気分が乗りませんでしたでしたがこういう機会も必要だと思いました。子どもの私たちにとって親の理解が、皆が思っている以上に大切なのだとわかりました。

▼一人で悩まずに、家族や友達、誰かが絶対支えてくれていることを頭に入れておこうと思いました。▼薬物や暴力は何があってもだめだ、と思います。今日の授業を忘れないでおきたいです。

この他、人との繋がりや関わりが大切だという意見が多くありました。かなり前に制作されたビデオでも最も必要とされる他人との関わりについて考え学べる機会になったようです。オンライン化が進むこの時代に、このようなケース研究会は、より一層必要とされているのではないかと考えさせられました。

ひとりひとりの可能性

橋立中学校校長 紙井 かおる

今回、生徒と共に「二つの道」という映像を見て、犯罪や非行をした人たちが立ち直ろうとすることについて考える機会をいただきました。十五歳の少年が思うような受験ができず、自暴自棄になり、他者を傷つけ、その後、保護観察処分になってしまったというストーリー。立ち直りを支援するには周りがどのように関わることが大切なのか、生徒一人一人が主人公に自分を重ねて考えていたように思います。

更生を目指す人に心を寄せて温かく接することの大切さは言葉で理解できても行動で表すことは決して容易なことではないと感じます。生徒たちは、グループの中に入って一緒に話し合いに参加して



くださった保護司の方の言葉に新たな気づきを見つけたように思います。

中学三年生は正に、これから受験を迎えます。自分の家族にどんなふう支えてほしいか、家族に理解してもらいながら進路を選択できる環境をありがたく感じたことでしょう。後悔しないためにしっかりと考えて行動を起こすことの重要性を認識できたと思います。

小さな迷いも含め、日々迷うことの連続で私たちは生活しています。選んだ末「あっちの方がよかったかも・・・」と選ばなかった方のことを思い描き、後悔することもしばしばです。この先、小さな岐路もあれば人生を左右する大きな岐路もあるでしょう。時間を戻すことはできないので、選択することはとても重い作業です。しかし、一つ選んで進んだとしても、それで人生が決まりではありません。道はさらに分岐が続き、常に選択して進まなければなりません。たとえ失敗だと思っても常に可能性は前にあります。自分の道は自分で判断し選ぶことが大切です。自分の人生の主人公は自分自身です。前を向いて自己の可能性を拓いてほしいと願っています。

合同研修会

**保護司会と更生保護女性会
活動の理解と今後の思い**

加賀地区更生保護女性会
山代地区

三宅 桂子

保護司会と更生保護女性会の合同研修会は毎年実施されています。今までは、講師の方の講演を拝聴することが殆どでした。今回は「保護司会と更生保護女性会の理解」というテーマで保護司会会長の日下氏と更生保護女性会会長の澤田氏が講師を務められ、それぞれの会の内容と活動状況を分かりやすくお話されました。今までも理解をしているつもりでしたが、犯罪や非行のない明るい社会を目指すという明確な目標の基に、保護司会、更生保護女性会は諸先輩の努力と人間愛に培われて継続され、長い歴史を築いてこられたのだと改めて感じました。

今回の研修会でお互いがおお層、理解が深められたと思います。保護司は、直接対象者の立場に立ち、寄り添い、社会生活に復帰できるように、立ち直りの手助けをされている努力に頭が下がります。又、この度、日下会長を通して「教誨師」を知りました。尊いお勤めだと胸が熱くなりました。

私たちはこれからも、地域との連携を大切に更生保護の活動に参加していきたいと思えます。奇しくもこの日は、澤田会長のお誕生日でした。司会者の機転で、参加者全員でハッピーバースデーを歌い和やかな雰囲気の中で会が終了しました。

合同研修会を企画して

協力組織部 黍根 健治

今年度は講演のテーマを保護司会と更生保護女性会の活動をお互いに理解し、今後の活動に繋げるという主旨で開催しました。

両会の会長、保護司会は日下賢城氏、更生保護女性会は澤田淳子氏のお二人による講演会となりました。会の目的、沿革、地区別会員数、これまでの会の推移などの説明を聞かせていただきました。

澤田会長から現在百二十名の会員での活動の課題は会員の高齢化と、会員数の減少もあり、若い世代への呼びかけを行っているとのことです。

保護司会との違いは色々ありますが、女性あるいは母親の気持ちで、更生保護施設で、夕食作りをすることで入所者から感謝されていました。コロナ禍のため現在は中止となっています。なかなか

難しい内容でしたが、更女会の活動を知る機会となりました。より一層理解を深め、今後とも頑張っていければ、と感じた次第です。

地域との交流

ステンドグラスに願いを込めて

協力組織部 中村 紀久枝

加賀温泉駅前にクリスマスツリーが設置され、明るく華やかな彩りで照らし、人々を楽しませていきます。加賀白山ロータリークラブの宮本一夫会長から「加賀温泉駅前モミの木設置事業」を加賀高校、保護司会との三団体での交流事業として参加してほしいとの依頼がありました。

青少年の育成と地域交流を目的とする交流事業です。高さ六メートルのモミの木に手作りのステンドグラスを取り付け、地域の活性化を願うと共に、新幹線開業に向けて、観光客歓迎に花を添える事にもなります。青少年の育成と地



域を目的とする事業は高校生との交流や地域との関わりを模索する保護司会としても有難い参加への依頼でした。

さて、「出会いと人生の向上に繋げる」とのテーマで、ステンドグラスを五十個作ることにしました。保護司会が下準備した裁断された色ガラスに銅テープを巻き型を作り、加賀高校生とロータリークラブのかたと共にハンダ付けをしステンドグラスの作成に取り組みました。初めてのステンドグラス体験で苦戦しましたが、相談しながら複雑な工程をこなすことができました。交流作業の中で高校生からは将来の進学、就職、学校での生活の様子などを聴くことができ良い機会になりました。

点灯セレモニーには加賀市長や加賀温泉駅長、郵便局長が参加され市内の園児が「サンタへの手紙」を投函するというイベントが企画されました。点灯したツリーを眺めながらやさしい笑顔が一杯の時間を共有することができました。

コロナ禍で保護司の活動も制限される中で、地域に貢献されている活発な団体と共に交流できたことは有意義なことでした。今後も加賀市の子どもたち、生徒との交流も模索していきたいと思えます。

長いようで短かった三十年

田中 源基



平成三年の春先、伊林利子先生（当時、保護区の庶務で、後に副会長）の声掛けで、同年十月二十日付で保護司を拝命し、令和三年十月十九日に定年で退任をいたしました。丁度三十年になります。

その間、保護観察は二十三件、生活環境調整は六件、その他三件を担当しました。再犯もありましたが、そんな中で感じたことは、こちらが一生懸命やれば、相手も応えてくれるということでした。

一方、平成五年十月に保護区の庶務を仰せつかり、以降、庶務を十三年半、副会長四年、会長四年、その後定年まで顧問と、長きにわたり保護区の運営に携わってききましたが、皆様のご協力によりまし

て職務を全うできましたことを、厚く御礼申し上げます。

又、会長の時には、石川県保護司連合会の副会長や、中部保護司連盟の理事なども務め、多くの人達との出会いは何よりも得難いものでありました。

保護司在任中で印象に残っているのは、会長をしていた平成二十四年四月に加賀市民会館の一室に更生保護サポートセンター（兼加賀保護区保護司会事務局）を開設できたことです。これも市当局や社会福祉協議会等、皆さんのご協力の賜物と今でも感謝しております。

もう一つは、平成二十八年秋の叙勲で瑞宝双光章を頂いたことです。法務省で法務大臣から勲章と勲記を頂き、その後、皇居宮殿にて天皇陛下に拝謁し、お言葉を賜りましたが、これには配偶者も同伴できたのですが、この二年前に妻を急性白血病で亡くしており、同伴は叶うことができませんでした。私の一番の理解者であり協力者であった妻を同伴できなかったことが、今でも心残りです。

長いようで短かった三十年、いろいろありましたが、皆様のご協力、ご支援、時にはご叱咤も頂き、何とか定年を迎えることができました

した。心から御礼申し上げます。

今後は保護司OBの一人として何らかの形で更生保護に携わっていきたいと思っております。

富山ダルクへ

協力組織部 大神 妙子

十二月、富山ダルクへ訪問する機会を得て、保護司会、更生保護女性会からのご好意の品々を持参し、一路富山へ向かいました。

以前にも、ご自身が薬物依存症であった林理事長の講演を聴く機会があり、その時初めて当事者の生の声を聴き衝撃を受けたことを思い出していました。

今回、林氏は不在でしたが同様に自身も依存症でそれを克服された方と一つのテーブルを介し間近



でお話を伺うことができました。「この方はどんなふうにも、今の自分を取り戻してきたのだろうか・・・」と思いを巡らし、その真剣な眼差しで一つ一つ言葉を選んで話される姿に深く心が動かされました。未成年の時に薬物に手を付け、次第に抜けられず、深い闇に陥り、このダルクに繋がれたということでした。

親子、家族関係のなかでの生きづらさが根っこにあり、自身の力でどうにもならず、辿り着いたところがダルク。回復は専門家だけでは難しい。様々なサポートプログラムの中で、苦しみを抱えた者同志と関わり合い、回復の歩みを実感していくことが必要という事でした。

私自身はもちろん、人は誰しも正しいことだけで生きてはいない。間違っていること、グレーで曖昧な部分、その狭間でもがいていると思います。善悪の観念だけでは片付けられない何かがある。依存症は「心の病」「関係性の病」だと言われます。誰しもそこに陥る危うさを持っていると思います。そこで思うのはやはり人が生きていくために最も必要で、救いへの道となるのは「心の居場所」があることだと改めて知る思いでした。

「再犯防止」について

加賀保護区保護司会会長

日下 賢城

国民が犯罪による被害に遭うことを防止し、安心・安全な社会の実現を図るために、平成二十八年「再犯防止推進法」が成立しました。これは、刑事司法関係機関だけの取組では限界があり、国・地方公共団体・民間が一丸とならねば、再犯を防止できないということと制定された法案です。そして平成二十九年十二月に「再犯防止推進計画」が閣議決定され、令和二年には石川県でも「石川県再犯防止推進計画」が策定されました。

石川県の再犯率は五十二%と高い状況です。仕事や住居も不安定で、高齢、障害、依存症、不十分な教育など多くの問題を抱えなが

ら、必要な支援も受けられない、社会も中々受け入れてくれないから犯罪を繰り返す…。これでは出所者の更生や円滑な社会復帰は望めません。保護司というボランティア活動だけではどうしても限界があります。市町村や関係諸団体が一丸となつて、初めて「一人も取り残さない、明るい社会」の実現に近づけるのでしょうか。その為には、加賀市においても早期に「再犯防止推進」のための計画を策定していただければ、全員で働きかけて行きたいと思っております。

刑務所の刑務官職員室のポスターにこんなことが書いてあります。「刑務所。その後を知ってますか？外に出た後、帰る場所が無くて…頼れる人がいなくても…それでも、生きていく」と。

ご協力ありがとうございました

令和2年度賛助会員名簿

※令和3年度賛助会員名簿は次号に掲載します。

▼大聖寺分区

- ・(有)河野石産
- ・第2なかよし丸
- ・(有)加納仏壇店
- ・ナイテック・プレシジョン(株)
- ・(有)長久会加賀こころの病院
- ・加賀商工会議所
- ・(有)友星自動車
- ・河村弘幸
- ・(有)マック
- ・中出一郎
- ・(有)吉田燃設
- ・伊林永幸
- ・めがねと補聴器のやました
- ・本善寺
- ・(株)月星製作所

▼片山津分区

- ・(有)矢田郷商店
- ・(有)興栄商会
- ・(有)冠婚葬祭ながやま
- ・皐月会
- ・(有)北陸食堂
- ・(医)池本整形外科
- ・東野産業(株)
- ・竹内電気(株)
- ・(株)稲手鉄工
- ・静念寺
- ・(株)スガモトテント
- ・近藤医院
- ・(有)奥野モータース
- ・(株)ホテル森本
- ・勝光寺

▼山代分区

- ・(株)山代印刷
- ・伸光建設(株)
- ・(株)サイエン
- ・(有)ササハラ薬局
- ・山代温泉旅館協同組合
- ・(株)シモアラ
- ・大嶋 茂
- ・(株)尾山製作所
- ・石田 雅樹
- ・紅柿荘
- ・王 海浜(ワン カイヒン)
- ・牧野 裕

▼山中分区

- ・上田医院
- ・山中温泉商店協同組合
- ・辻新太郎
- ・(株)ハートフルなかがわ
- ・梅田隆平
- ・山中温泉料飲業協同組合
- ・恩栄寺
- ・燈明寺
- ・井筒幸夫
- ・山中商工会
- ・鈴木医院
- ・法圓寺

保護司会へのご寄付

- 西野忠夫 (保護司)
- 三井聖子 (作家)

令和3年度 石川県更生保護功労者顕彰

顕彰式典は白山市鶴来総合文化会館クレインで二年ぶりの開催となりました。加賀保護区関係では、次の方々を受彰されました。



▼法務大臣表彰
紺谷 欽夫(山中)

▼社会を明るくする運動
法務大臣感謝状
中村 秋塘(作家)

▼全国保護司連盟理事長表彰
中谷香代子(片山津)

▼石川県知事感謝状
日下 賢城(山中)

山下二三夫(大聖寺)
紺谷 正之(大聖寺)

▼中部地方
更生保護委員会委員長表彰
新家千代子(山中)

▼中部地方保護司連盟会長表彰
大神 妙子(大聖寺)
高田 樹春(大聖寺)
都治 正人(山代)

*家族功労

日下 典子(山中)
(賢城)

▼金沢保護観察所長表彰

小原公美子(大聖寺)
上出加喜子(山代)
河嶋 和江(大聖寺)
山村 浩美(片山津)
横河 了然(片山津)
市田 博文(大聖寺)
藤懿まり子(山中)

▼石川県保護司会連合会会長表彰

人事進捗

3・10・19 退任
田中 源基 大聖寺



「未来ある子どもの支援」のため この機関誌に付随して
1冊が加賀市共同募金委員会に寄付されます